

高齢化社会を迎え、あらゆる空間でのバリアフリーが当然のこととして求められる現代では、手すりもまた、人々の安全を守り安心を与えるためのデザインでなくてはなりません。

「ユニップ」は世界で初めて、真の意味でのユニバーサルデザインの手すりとして生まれました。

年齢や握力や手の大きさに関係なく、すべての人にとって握りやすいフォルムを持った手すりです。



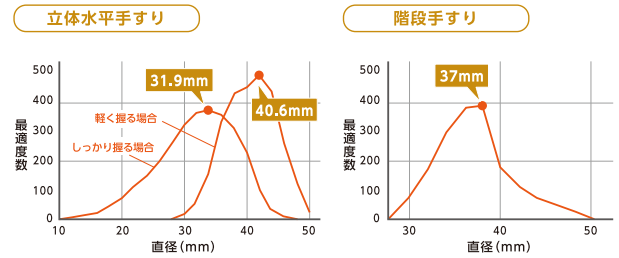
握りやすいコブのカタチ

どうして手すりの形はみな同じなの？「ユニップ」の開発はそんな疑問からスタートしました。野球のバット、クルマや自転車のハンドルなど、世の中の「握る」もの多くは、それぞれの目的のために工夫された形をしています。それなのに手すりについては、形の工夫はほとんどされ

てきませんでした。特に階段を下りるとき握る手すりの形状は、命を守るフォルムと言っても過言ではありません。握って下りるときに発生するすべりどめのための工夫が施されたフォルム。それがゆるやかなサインカーブを描くコブのカタチです。

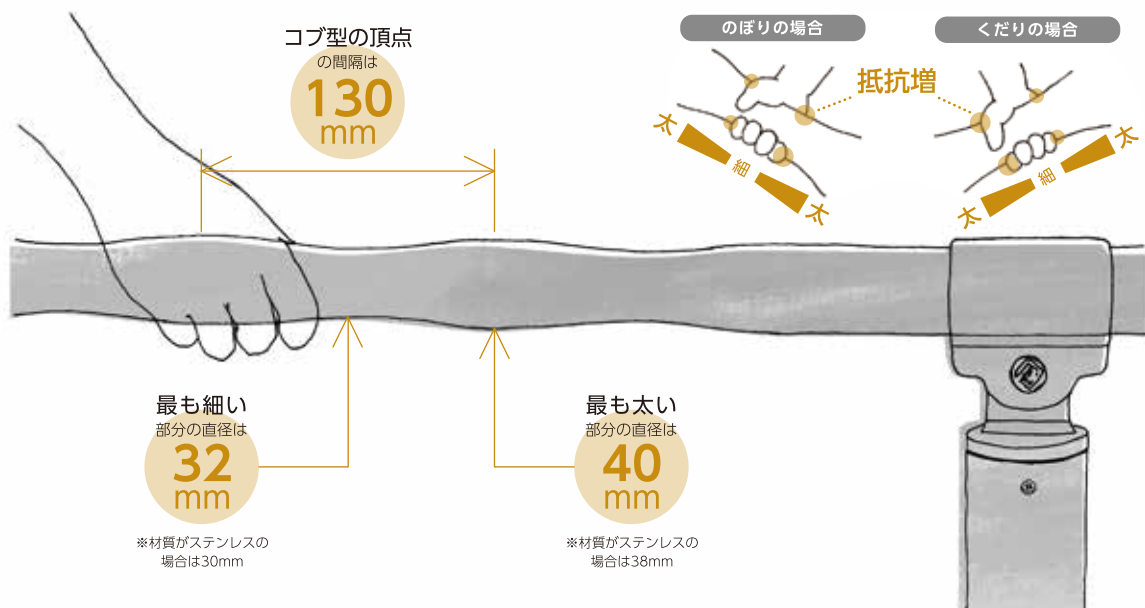
安全安心なコブの寸法

立位水平手すりと階段手すり、用途の違う2種類の手すりの握りやすい直径の最適値を満たすためのコブはどのような寸法がベストなのでしょう。32mmから直径が少しずつ大きくなって40mmでピークになり、また32mmまで直径がゆるやかに小さくなっていく曲線を、手の大きさなどさまざまな要素から導き出した130mmという間隔で作れば、手すりに求められる重要な要求をいっぺんに満たすことができるのです。



立位水平手すりで単に案内の機能のみが満足されればよい場合は、直径40.6mmの設定となるが、転落防止の機能を重視する場合は、直径31.9mmで設定することが望ましい。




階段手すりは、37mmで設定すれば同様に支障なく使用できると判断される。
 (出展：日本建築学会大会学術講演梗概集「高齢者に対応した手すりのあり方に関する研究」)



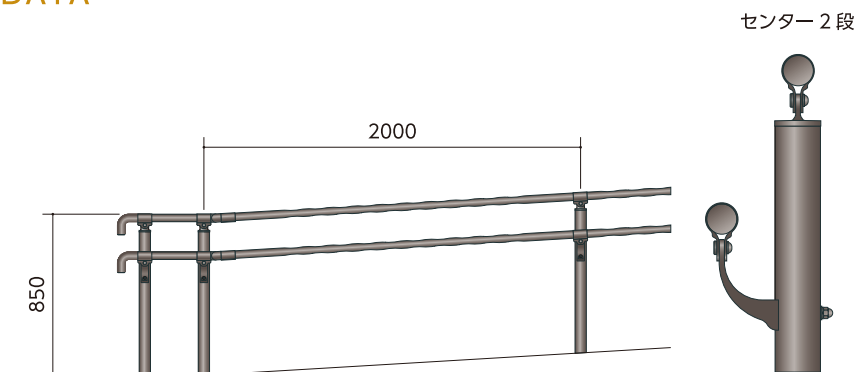
他の手すりとコブ型手すりとの違い

コブ型手すり「ユニップ」は他の手すりとは何が違うのか？それは機能、使用者、設置場所を選ばない真の意味でのユニバーサルデザイン製品だということです。

他の手すりとの比較データ

手すりの形状	直棒手すり				こぶ型手すり UNIP				特殊手すり			
		同じ直径 同じ形状				直径変化 形状変化				同じ直径 形状変化		
機能性	歩行補助		動作補助		歩行補助		動作補助		歩行補助		動作補助	
	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎
使用者層	子供	健常者	高齢者	子供	健常者	高齢者	子供	健常者	高齢者	子供	健常者	高齢者
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○
デザイン性・注目度	△				◎				◎			
設置場所(角度)	急角度	普通	なだらか	水平	急角度	普通	なだらか	水平	急角度	普通	なだらか	水平
	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	×	○	△	×
備考	使用の目的や場所によって様々な径を用意しなければならない。				使用の目的や場所に関係なくカバーすることができる。				手をそわせられず安全性が低い。トイレ用として開発された。			

TECHNICAL DATA



A-UNIP

こぶ型手すり: φ40~φ32アルミ型材 サイズ:H850×W2000
支柱: φ60アルミ型材 色: マットブラウン

VARIATION



A-UNIP



S-UNIP



J-UNIP



H-UNIP